一般質問

町政のここを聞く

質疑の一部を要約してお伝えします

質問時間は、一人30分以内
今回は12人が登壇しました。

質問 新型コロナ禍は、日本の社会システムの様々な矛盾をあぶり出した

町長 国・県と連携した住民福祉の向上に努めている

川西　明徳　議員

質問 自治体は、新型コロナの感染拡大の対応では、住民の要望を把握し、政策化していくことを求める。

町長 コロナ感染症の拡大局面に、地域における行政を自主的、総合的に実施する役割、地方自治の本旨に基づく運営に全ての職員が一緒になって取り組んでいる。

補完性の原理として、国と地方公共団体の役割分担、県と市町村の役割分担について、それぞれが本来果たすべき役割を踏まえ、国、県、市町村が連携した住民福祉の向上に努めている。

質問 緊急事態宣言、自粛要請が繰り返され、地域の主な経済主体である中小零細企業の多くが疲弊している。

例えば理念型の中小企業振興基本条例を奥出雲町も制定したが、条例を基に具体的な施策検討が進んでいないのも実態だ。

独自施策を検討、策定し、実施していくことを求める。

町長 中小企業と小規模事業者が本町経済の発展、雇用の場の確保に果たす役割の重要性にかんがみ、町中小企業・小規模企業振興基本条例を定めた。

行政、事業者、支援金融機関などが役割を担いながら本町の企業振興に寄与していく精神にのっとり、商工会や金融機関と協調を図り、町内事業者が安定して事業継続されることで町内経済の発展と雇用の場の確保がなされるよう、各種支援を講じていく。

米の価格低下について

質問 本年産は米の再生産を不可能にする価格だ。これが令和3年産、令和4年産と続けば、農家の稲作からの撤退は雪崩を打つ事態になりかねない。

まずは再生産可能な物財費助成を求める。

町長 本年は米の在庫量が増加することによる価格の低下は予想はしていたが、ここまで大きく値を下げるとは想定外だ。

堆肥施用米、出雲國仁多米、奥出雲千石米は、米の再生産に向けた支援として奥出雲仁多米株式会社によるブランド加算金の増額を検討する。

その他の質問

コロナ禍の中で小規模学校の魅力などについて。

質問 危険な通学路に早急な対策実施を

町長 緊急性の高い箇所から対応を進める

内田　雅人　議員

質問 令和2年度の町内各小中学校からの通学路の改善要望は全部で41ヵ所だったが、すぐ対応する箇所は6ヵ所に留まった。通学路の安全対策の実施が進んでいない。

6月千葉県で飲酒運転のトラックに児童がはねられ5人が死傷した事故は、危険な状態を把握しながら市の対応が後回しになっていた。奥出雲町も三成交番所長に確認をしたが、飲酒運転が絶えず、検挙もされており危険な状態が続いている。

危険箇所には歩道の設置などの整備が難しければ、他の物理的な対策で早急に安全確保する必要がある。

危険運転から守るポールなどの物理的な対策が必要

町長 千葉県の事故を受け、10月1日に臨時点検を実施する。この結果を踏まえ、緊急性の高い箇所から対応を進めていく。

また、各学校の児童生徒に対し交通安全についての啓発と、運転者への対応として飲酒運転根絶の広報啓発を、春秋の交通安全運動の重要項目に織り込み、町民の模範意識の向上を図る。

再質問 現状は運転手のモラルに頼っている状態だ。飲酒運転するドライバーにそれは通じない。物理的な対策を早急に打ってもらいたい。やはりトップの推進、これが一番大事だ。

町長 担当課と話合いながら緊急性の高いところからしっかり対応したい。

災害の注意喚起を多種多様な方法で

質問 この夏は大雨による土砂災害などの被害が多かった。災害に対しての注意喚起や避難所開設の告知は、有線放送や町のホームページ、SNSに加えて、ケーブルテレビ放送でもできないか。情報格差が個々で生まれないよう多種多様な方法が求められる。

町長 テロップ表示させる機能はあるが、職員の操作が必要で人員確保が難しい。災害時はNHK、民放各局で防災情報を集約しながら流しており、町の災害関連情報もこの中に反映される。

今、防災行政無線の仕様検討を行っているが、屋外スピーカーの増設に加え、戸別受信機の全戸配布を念頭に準備を進めている。

再質問 戸別受信機の全戸配布は大きな前進だ。詳細は。

総務課長 ラジオ程度の大きさの機器で、防災行政無線をキャッチをして放送し、ラジオも聴くことができる。

その他の質問

GIGAスクール構想の現状と効果、木次線存続について。